

A 429

7

宸怒雷降驚賊兵
錦旗整々向熊城
勿論成敗利鈍事
天網爭逃西海鯨

御屆明治十年五月五日

48-7883

一の
 篠原国幹
 きつとど
 吉次越よ
 於て討死
 の因づ



鹿見島の暴徒と肥後路へ乱入せし
 きた誰ふも相談もよく「鹿見島藩領分
 とし、建札と出したるゆへ大分縣の士族
 憤怒し不埒ある所置かま一言のこころも
 るく領分なごり札と建るとい餘りある
 所業ありと不平を鳴し、
 する者あたら一ツの僥倖あり
 ○大山縣令をいよく官位を剥奪されし
 と十五日の朝不意に横平山の臺場へ賊
 の方より切込し、ゆゑ官軍も一時引揚げ

を巡査六十人を一手に合けし
 切り込し外りも一手切り入り手痛
 く激戦し、おらび臺場とより返し此戦ひは
 官軍が浅手八人なり十五日に乗り取
 田原坂の臺場を官軍が守衛を其後
 賊が来たを襲へども追生るしあり
 十六日、二股村の本陣へ賊兵切り込
 した官軍の哨兵が防ぎぬけ胸壁三
 ケ所を奪われ、直に盛りかへし二ツまで
 取り返せし、一ヶ所を容易しより返せし

巡查の左右より抜刀よく歩兵へ前より進
撃し大戦争とあり漸やくふし取り返
し賊を追ひありぞけなきとも双方死傷
多かりり

○十八日今日鎮臺兵二大隊と原二等大警
部をとりめ警部が九人巡查三百五十人
神戸へ向け出帆醫官藤井山川外二人
同船といふ曾我少将を東京鎮臺司令長
官と免ぜられ大坂出張と命ぜらる今日
出立のちの跡を東伏見少将司令長官と

命ぜらる

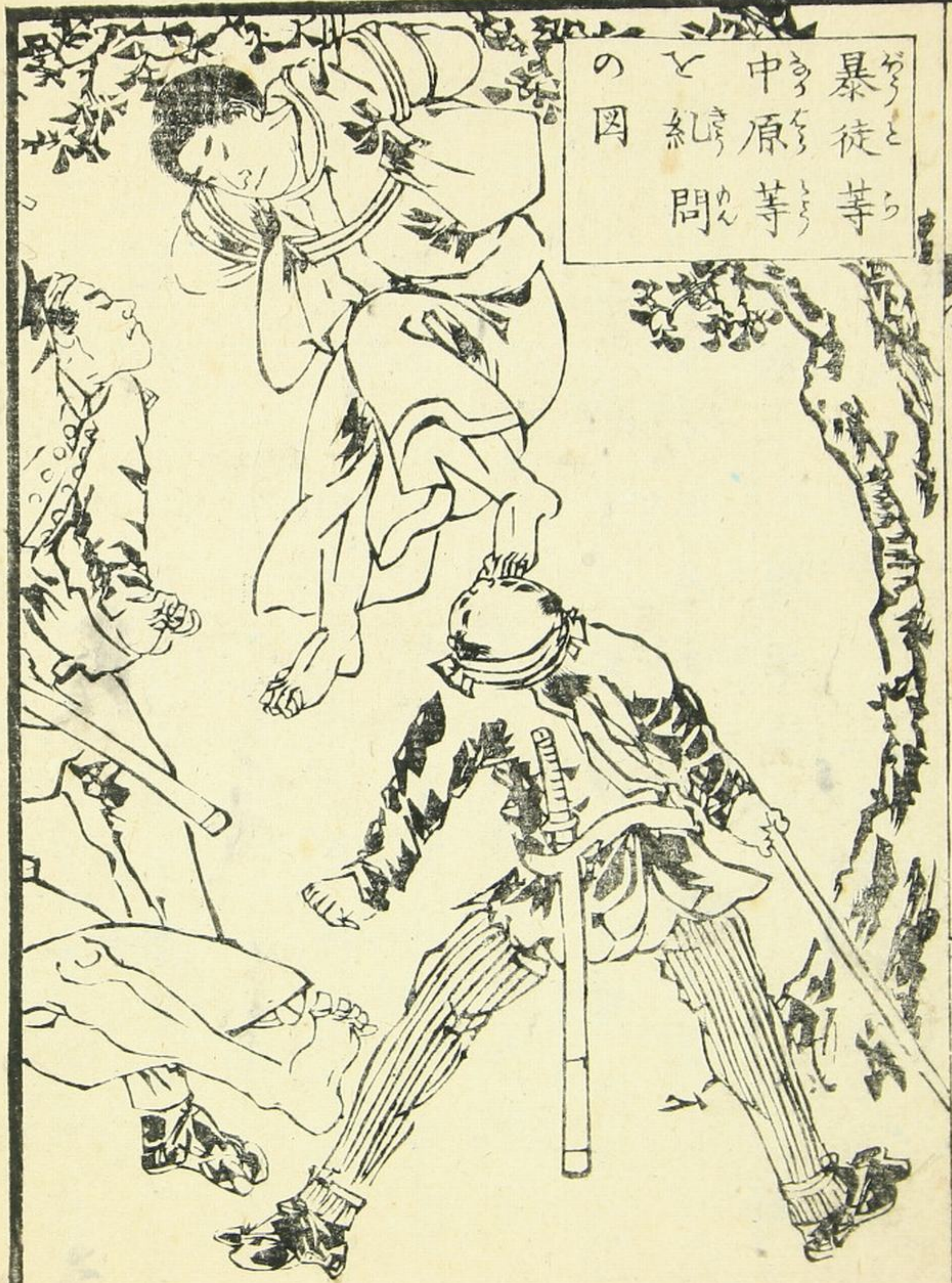
○勅使の一行を十六日神戸へ着させしと
兵庫縣より知らせりませし山鹿口岩村
の官軍の長野原ハツレ車返し坂へきむ所
に賊の伏兵左右より不意より出で
まきとあつて苦戦して死傷も多かりり平山へ
進んだと下手を賊と杉村より追ひ退りけ
る月とも戦ひ午後止むとありませ
大坂より知らせし十七日田原坂の戦争の
後賊兵三百人あり十六日乗り取りし

臺場へ切り込み大奮戦し追ひかへし
且どあの賊も日向一屯一豊後へ出張の
手筈で入りしやみいふ田原坂へ向ひし
貴島とりし更と生捕の者白状せしとあり
○十六日田原坂より鳥居イホウ田中久方
郎の口供し私どもも貴島の勢の隊し
暴徒ししせば入りしや本堂があやうひ
應援とたのむと再三の頼みふつた六百人の
勢とありし十四日の晩植木し着し十五日
は織田啟助勢十九郎の二小隊の百五十

人を田原坂の壘へ切り込ませたり又薩
より熊本へおし出りたる人数かよそ七
隊ありしを二百人を一小隊としし八小隊と
一大隊と云ふ植木の隊へ死傷多くし一
小隊のうちをい二十七八人ありしを
節鹿見島より到着の兵を一大隊なり
西郷も自身し戦うため精兵と八百
人残りしと云ふし手疵を受けしと
云ふも村田三介篠原もたし吉次越
て討死せしと白状のおのむた電報あり



のと 中多 暴多
 因 糾原 徒等
 問 等 等



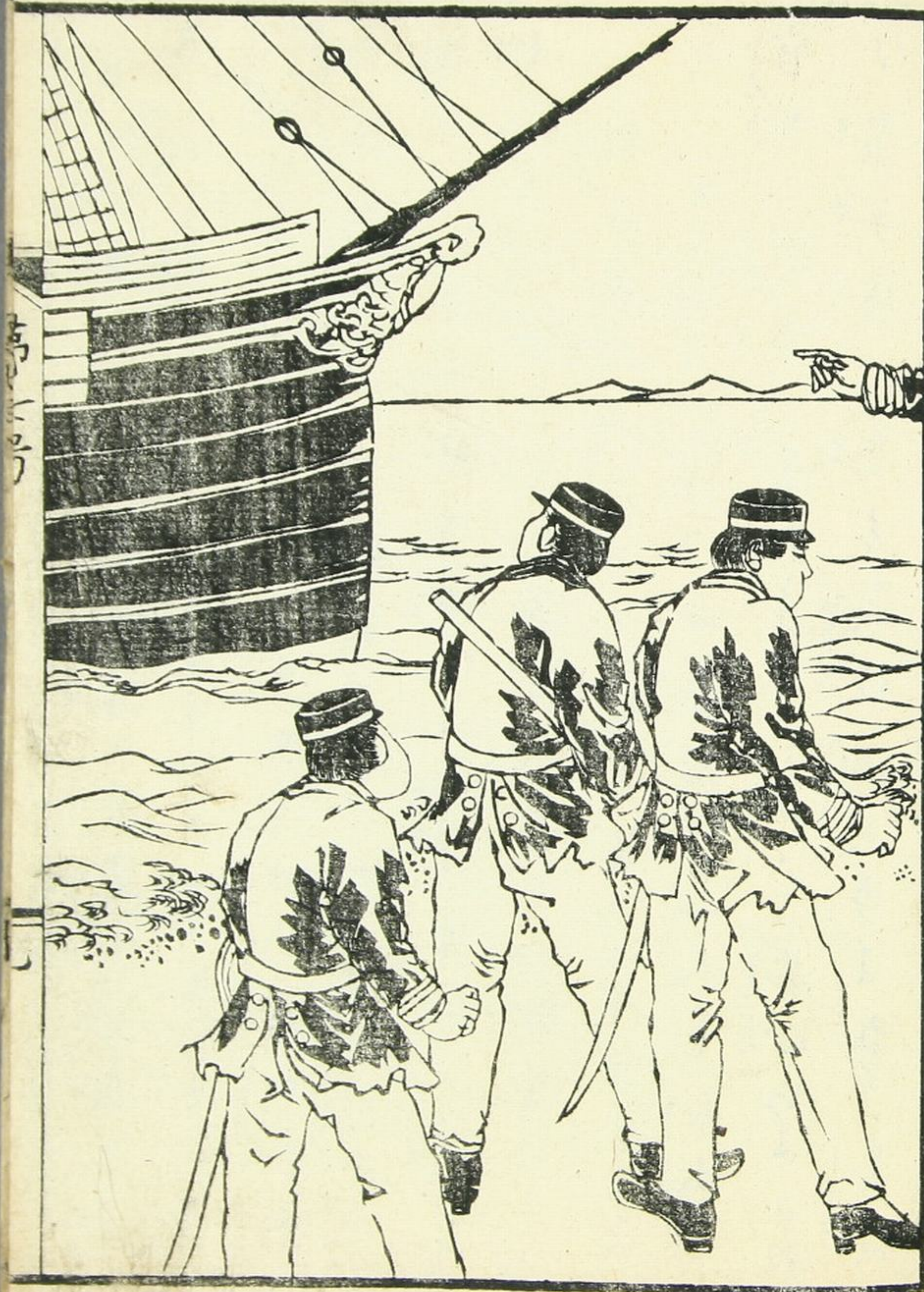
○十八日田原坂より早朝より開戦あり
賊の臺場ニヶ所を攻め取り田原坂口の
要害の臺場を賊がかく守りて容易に
抜けぬ山鹿口を十七日休戦の模様なり
ども確の報を得ずと有り

○此程東京へ来りし中原尚雄とて其
外の面々鹿兒島へ歸縣したりしと暴徒
等来りて其方等を探索のたれ歸縣す
しと有りしと何れも捕縛されしと有り
拷問より初め此方よりい夢ふもあらぬ

事先方との度戦争をせしむる無名の軍
る出来ぬ中人名を付けんがため荒縄より
縛り上げ鉄鞭をりり打ち懲らし又手
足を縊り糞汁の中へ投込となど嚴に打擲
中人節々息も止まりぬ然るもたれ茶然
飲ませ気と付けしと拷問よりかける人
九死一生して或ひる髪を毛と引きぬれ
る事もゆりまゝ大地を引きまゝと盜賊と
同様牢屋へ入れ置き何れ多勢と無勢と
て詮方なく一同あの上を死とすより外他事

ま—と覚悟—たりたる又く暴徒等申—け
るを探索のため帰縣せ—は相違これあり
と云ふ書面は拇印と押せと無理無体はか
倒—は拇印と押させ実—は惨酷非道のり
—か—申中原をとり血の涙となりあ
上を如何あ—んと日を送るうち暴徒を
その書面と得る軍の名と設けたる中人何
より大切あり—のよ—出陣さきんまる今日
勢ぞろひ熊本城を何のそと西郷が大将は
て出陣あさべ九州地方を一夜のうちふ従ふ

都へのびるちいと安—イザ出陣の血祭り
中原をとりめ其他の者と牢より引き
出—首と虚空へ打ち飛ば—刀の切味は
あ—ろ—と呉さんと踏込—の美經を
白鉢もた長刀は腰に横た人腕まくり
く勇ま—く此方を—く牢の内—く無
実の罪—血祭り—の残念至極とのがま
歯—と—くも尤もあり—獄内
沙汰—の西郷が總大将—桐野篠原村田
の三將精兵はあつめ勇とあるい—く鹿見



中原初め
 一同出牢
 して官艦
 に乗るに
 む因



葉七号

新納新左エ門しんしん同入どうにゅうち當時賊中とうじぞくちゆうに在ある
とりの説せつり

○東京警視局とうきやうけいしきくわうより三尺さんしゃくぐりあの棒ぼうの様ようなるの
と三百本さんひゃくほんをど戦地せんちへまのんされしとりの

○大山綱良おほやまのうらその外ほか中原ちゆうげんの連つらる兵庫へいこより
留とめらるは臨時裁判りんじさいばんをおしるとりの子細こま

分わらるを
○鹿見島かみじまの砲臺ぱうたいへまんの破却はきゃくし用立ようたてぬやう

しせしとりの長寄海軍省ながよいかいぐんしょうよりの電報でんぱうあり
八号近刺

